

S君への手紙 ——一緒に研究しましょう——

高知県十和村診療所 井上和男

後輩のS君へ

この前は久しぶりに会えて楽しかったです。あの学会で、私の発表を聞いてくれてありがとう。発表の後で、君が私に「こんどは私も仮説や疑問についてデザインをした研究をしてみたいです。」と話し掛けてきて、その後大いに盛り上がったものでした。その時に話し忘れたことをいくつか書きます。

まず研究テーマですが、何をしたらよいだろうという声をよく聞きます。おっと、君はその点はわかっているのではしたね。我々は診療所あるいは病院など医療の現場で仕事をしているわけですが、その時に「この患者さんの持っている病気のこの点はどうなっているのだろうか」とか、「この症状はこの病気ではあまり聞かないけどよくあるのだろうか」とか、種々の疑問が（いつもではないにせよ）湧くだろうと思います。その時、多くの人はいわゆる教科書を引くでしょう。例を挙げるとHarrison内科書とか、今日の治療指針とか、ワシントン・マニュアルとかです。あるいは先輩の物知りそうな人に聞くかもしれません。さらに、現在ではインターネットが普及しましたから、オンラインデータベースでMedlineなどに蓄積されている論文を引くこともあるでしょう。そこでかなりの部分は判明するかもしれません。しかし時に検索してもどうしても答えが見つからないことがあります。また、その答えが日常の診療で得た感触と違うこともあります。例を挙げれば、例えば冠動脈疾患の頻度など人種間で相違が明らかで、欧米で得られた疫学研究の結果しかない場合などです。こうした全ての種類の疑問や、これまでの答えに違和感を覚えた場合、それら全ては研究のテーマになるのです。自分の疑問を突き詰めてみると、意外にわかっていないことは多いもの

です。例えば、現在最も華々しい分野であるMolecular Biologyでも、遺伝子情報が詳細にわかっているのはヒトを含めた数種の生物でしかありません。S君が仕事をしている現場にも様々な問題や疑問が内在していると思います。我々の目の前にある人々の暮らしをじっとみつめたとき、そうした疑問が湧いてくれば、それは社会に還元できる良い研究になりえます。それがそれがどのカテゴリーか、つまり基礎か、臨床か、あるいは社会医学ということとは問題ではありません。

科学は、あたかも、まだ作られていないピースを組み合わせて、無限のジグソーパズルを解く過程に似ている。すなわち、ジグソーパズルの新しいピースを作り出すことは、有益な仕事であろう。しかし、すでに、正しく組み合わされるピースがある時に、新しいピースを作り出すことが、評判を獲得することなのである。このことから、科学論文において、さらには、恐らく、研究計画についても、2つのことが言える。第1に、それは、すでになされたことから出発するものでなければならぬことである。第2に、それは、やりがいのある方向を指していると思われるものでなければならぬ。しかし、この2つの条件は、日本の研究者にとっては、特に難しいことのように見える。… (Nature Japanホームページからの引用；<http://www.naturejpn.com/newnature/htgtp/howto4.html>)

ぜひ一緒に研究をしましょう。この前私が君に手渡した私の論文は、同じ趣旨で別の後輩に持ち掛けたものです。論文の全体像は私が指導したのですが、論文を実際に形にしたのはその彼です。彼は「これだけいろいろな作業があるのだったら、研究をしたことがない人が最初から研究の主体者になることは困難です。今回先生の論文を手伝う

ことにより、自分で研究をできる経験が積みま
した。」と言ってくれました。実際彼はこの論文を通
じて、その関連分野の知識、統計解析、インター
ネット経由の論文検索、検索結果からの文献デー
タベース作成、Native Checkによる原稿校正、図
表の作成、カバーレター作成、投稿、編集者との
やりとりと経験を積んだわけです。そして現在そ
の関連でFirst Authorとして論文を書いていま
す。S君も普段は診療所で忙しく、なかなか会え

ないですが心配ありません。別の後輩とは普段離
れているのですが、電子メールを使い、問題なく
共同研究ができつい最近論文も出版されました。
この論文の草稿についても、米国の知人に電子メ
ールで送り、コメントをもらいました、まさにイ
ンターネットのおかげです。そして私は、このよ
うに現場で研究する人が増え、成果を出すことを
望んでいます。では、連絡待っています。

(自治医科大学1982年卒業、高知県)